THE UKI NEWSLETTER

ふるさとへの想いがカタチに
ふるさと応援寄付金で実現するまちづくり

市民の皆さんを乗せ研修に向かうマイクロバスも寄付金で購入したもの

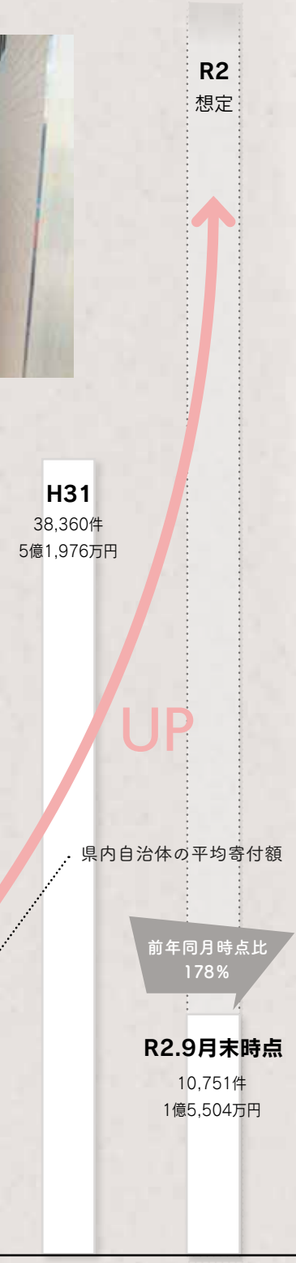
全国から寄せられる支援を市民サービスに

市にはふるさと応援寄付金によって、全国から多くの支援が届いています。

下のグラフのように、近年、寄付額はうなぎ上りに増え、昨年度は過去最高の5億円を突破。今年度もそれを大幅に超えるペースで寄付を頂いています。

寄付金は、地域振興基金として積み立てられ、令和元年度末時点で約6億円にも上ります。これまで教育環境の充実や福祉分野などに活用してきましたが、今後も市民サービス向上のため、大切に使っていきます。

問 企画課 ☎(32)1902



ふるさと応援寄付金

生まれ育った故郷への貢献や自分の意思で応援したい自治体を選択できる制度として、平成20年度に創設。寄付することで、翌年度に税の控除が受けられる。平成30年度の全国寄付実績は約5,100億円で年々増加傾向にある。

宇城市へのふるさと応援寄付金の推移（件数、金額）

H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
19件	16件	15件	16件	26件	46件	263件	462件
69万円	75万円	75万円	45万円	156万円	134万円	331万円	939万円

宇城市らしい使い道のために

寄付金の使い道は、次の6つの事業から寄付者が選べるようになっています。

①環境循環型社会の構築に関する事業
②健康づくりに関する事業
③質の高い教育、文化の向上に関する事業
④地場産業の育成と雇用の促進に関する事業
⑤観光の振興に関する事業
⑥その他目的達成のために市長が必要と認める事業

これらの事業から実際に何をしていくのか、市民に有効な活用方法を選考委員会（委員長 副市長）で審査し、使い道を決めています。ここでは、令和元年度事業3つを紹介します。多くの自治体の中から宇城市を選んで寄付いただいたお金は着実に宇城市の力になっています。

1 マイクロバス

市の事業や行政協力団体の研修、
そして児童・生徒の教育活動など年間100回以上使われている市のマイクロバス。快適に、安全安心に利用できるように、新たに購入しました。2月から使用しています。

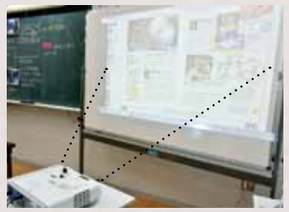
総事業費 6,944,953円

・バス利用者 voice・

婦人会の研修で使用しました。きれいで乗り心地がよかったです。研修の後にみんなでバスで感想を言い合ったりするのが楽しみ。コロナが収束して、早くぎゅうぎゅうになってバスに乗れる日が来ればいいですね。

横尾 七生子（なおこ）さん（豊野町）

2 電子黒板・デジタル教科書



分かりやすい授業のため、電子黒板などの大型提示装置を小・中学校の全教室に配置。デジタル教科書は、教師用のほか、中学生1人が1台使用するタブレットPCにも導入されています。

総事業費 72,817,089円

3 コミューン（対話支援機器）

音や声を聞こえやすくするコミューン。市では介護認定調査などの場面で使用しています。使った543人中約65％の対象者が「聞こえやすくなった」と回答し、より正確な診断を行うために活用しています。

総事業費 2,494,584円

・close up・

市自慢の返礼品

好評を頂いている本市の返礼品。市販価格を基にしてランキングを作成する「ふるさと納税ナビ」では、「宇城市産極早生みかん約12kg家庭用」（寄付額1万円）が果物部門で全国第3位に入りました。9月10日発売の小学館「週刊女性セブン」でも紹介されています。

返礼品取り扱い事業者に登録しませんか

皆さんがつくる魅力あふれる品々を広く全国にPRしてみませんか。詳しくはお問い合わせください。

ふるさと応援寄付金について詳しくはこちら

問 企画課 ☎32－1902